



別子銅山 とうなる 東平貯鉱庫跡

近代化えひめ歴史遺産 総合調査事業について

えひめ地域政策研究センター 研究員 土岐 博史



はじめに

えひめ地域政策研究センターでは、愛媛県教育委員会より「近代化えひめ歴史遺産総合調査事業」の委託を受け、今年度から来年度にかけての2カ年にわたり、愛媛県における近代化を支えた産業・交通・土木等に関する建造物（以下、近代化遺産）の総括的な調査を実施することとなりました。

愛媛県における近代化遺産に関する調査は、今回が2回目であり、過去2回実施している県は全国的にも珍しいと思います。

前回の調査事業では、平成13～14年度に愛媛県民環境部より委託を受けて当センターが実施し、その成果を広く一般に公表するため、『愛



萬翠荘 本館・管理人舎

媛温故紀行』と題して出版をしました。前回の調査事業における趣旨は、「まちづくり資産としての文化財」とした調査であり、文化財を『観光』資源という視点から捉えた調査事業でしたが、今回の調査事業は、前回の調査事業における成果をベースとして、文化財の構造や意匠などの学術的な特徴に関する調査に重点を置いて、いわば『文化財としての価値』という視点から調査を行います。また、全国的にも珍しい2回目の近代化遺産調査事業ということから、他県には見られない付加価値をつけた事業展開にしていきたいと考えております。

近代化遺産とは

近代化遺産とは、幕末（1853年）～第二次世界大戦終了時（1945年）までの間に建築され、日本の近代化に貢献した産業・交通・土木等に関わる建造物を指します。1993年（平成5年）に重要文化財に新たに設けられた種別で、これによって、近代の産業施設や土木施設が国の重要文化財に指定されるようになりました。また、単体としてではなく、システム全体を保存することが大きな特徴となっています。近代を担った施設を、建造物を中心として備品類や機械類など広範囲に保存し、システムが稼働していたときの状況をできるだけ生き生きと再現させることを目指しています。

愛媛県における近代化遺産に該当する重要文化財は、「岩屋寺大師堂」、「開明学校」、「旧広瀬家住宅」、「上芳我家住宅」、「道後温泉本館」、「本芳我家住宅」、そして今年10月21日に重要文化財の指定に答申された「萬翠荘」があります。

事業目的と背景

近代化遺産は、国や県・市町の文化財指定や国の登録文化財になっている一部のものを除き、文化財として保護されていないものは必ずしも多くなく、技術革新や産業構造の变革、経済効率の問題など



により取り壊しや改変が
進行しています。

愛媛県下においても、前
回の調査事業からの約10
年間に、1割を超える近代
化遺産が何らかの理由で
取り壊しになっておりま
す。

このような現状を踏ま
え、近代化遺産について文
化財としての学術調査を
中心として行い、その成果
を報告書に取りまとめ、今
後、文化財指定等によって

保存・顕彰することを目的としています。
さらには、調査を進めていく中で、個々の
物件毎に調査票を作成し、加えて、収
集された資料や古写真、図面類をデータ
化し、活用しやすくしていく予定です。

調査体制

調査における有効性・専門性を確保し
ていくために、産業・交通・土木等文化
財に造詣の深い学識経験者等に委嘱して
調査委員会を設置しております。

調査委員には、伊東孝氏（日本大学特
任教授）、後藤治氏（工学院大学教授）、
曲田清維氏（愛媛大学教授）、犬伏武彦氏
（松山東雲短期大学特任教授）、末岡照啓
氏（住友史料館副館長）に参加して頂い
ております。

また、永年、愛媛県を中心に近代化遺
産を活かしたまちづくり活動をされ、舞
たうん「歩キ目デス&足ラデス」にも執
筆している岡崎直司氏に主任調査員に
なって頂いており、専属して調査にあ
たつて頂いております。

事業状況

前回調査および各市町からの情報提供
を得て、愛媛県における近代化遺産に該
当する物件の総数は1,319件（23年
9月末時点）となっており、第一回調査
委員会において、左記のうち主要な物件
として400件程度を選定しておりま
す。

さらに、主要な物件の中から、年代、
規模、構造・意匠、本県の特性、保存状
態を考慮して、特に重要性が高く、学術
的な調査が十分になされていない物件と
して100件程度を「詳細

に調査する物件」として選
定し、調査委員や主任調
査員に加え、愛媛県建築
士会の協力も得て、図面
類作成や資料収集、聞取
りなど、現地調査を行っ
ています。

おわりに

近代化遺産は、技術革新



旧日進館（愛媛蚕種）

や産業構造の変革によって、
無用なものとしてその姿を
失いつつありますが、その
ひとつひとつに歴史があり、
物語があります。また、地域
の発展の変遷を物語るまに
近代という時代の生き証
人とも言える存在でもあり、
先人の努力の結晶である貴
重な文化遺産を大切に保存
し、活用し、後世に伝えてい
くことは現代に生きる私た
ちの重要な責務であるとも
考えております。

「遺産」という言葉はわが国では「残さ
れたもの」という印象が強いですが、英
語の「遺産」を意味する heritag
e には「後の世代に伝えるもの」という
意味合いが強く、次世代や未来に向けた
言葉です。したがって、近代化遺産の魅
力を発見し、どのように活
用して、魅力ある環境づく
りをしていくかは、次世代
の子どもたちへの環境づく
りをも意味しています。

この事業を通じて、地域の
まちづくりへ向けてのメッ
セージやヒントを提供でき
れば、当センターとしても、
これに勝る成果はないと感
じています。



旧東洋紡績 煉瓦倉庫、美名瀬橋